

# 群馬県における流域一体となった総合的な浸水対策の推進(防災・安全)

## 群馬県の現状

群馬県の管理する河川で改修が必要な延長のうち、一定の降雨に対して安全に洪水を流すことができる区間は約1/3程度となっており、近年も平成19年台風9号や平成23年台風12号により、約300棟の床上床下浸水被害が生じている状況です。

また、高度経済成長期以降に整備してきたダムや排水機場等の河川管理施設は、今後老朽化による更新や修繕費の増大が見込まれます。

## 課題

洪水被害が発生した地域では、再度災害を防止するために、人口や資産が集中する地域では更に安全度を高めるために計画的な河川改修を進める必要があります。

また、整備後年数が経過した河川管理施設においては、従来の事後的な管理では、老朽化による突然の機器停止のリスクや、大きな更新費が短期間に集中することが懸念されます。

## 目的

県内の各流域において、調節池や河川改修の整備による総合的な浸水対策を実施することにより、水害に強い県土を作るとともに、安全安心な県民生活の確保を図ります。

また、河川管理施設については、将来の維持・更新費を平準化するための長寿命化計画の策定や施設を長期にわたって安全に使用し続けるため、定期的な点検と計画的な補修により、効率的・効果的な維持管理を行います。

## 事業の指標

**指標1** 河川氾濫により、浸水被害を受ける恐れのある区域面積

当初値:3,292ha(H22)⇒目標値:2,868ha(H26末)

**指標2** 河川の要改修延長に対する改修済み延長の割合

当初値:32.6%(H22)⇒目標値:34.2%(H26末)

**指標3** 長寿命化計画を策定する排水機場・ダムの施設数

排水機場 当初値:1施設(H22)⇒目標値:4施設(H26末)

ダム 当初値:0施設(H22)⇒目標値:7施設(H26末)

**指標4** 県管理4ダムで発生している各施設の故障及び欠測回数

故障回数 当初値: 7回/年(H22)⇒目標値:0回/年(H26末)

欠測回数 当初値:227回/年(H22)⇒目標値:0回/年(H26末)

**指標5** 長寿命化計画に基づき延命化を図る河川管理施設の数

当初値:0施設(H22)⇒目標値:6施設(H26末)

## 成果と達成度報告

**指標1・指標2** 浸水被害を受ける恐れのある区域面積は**550ha 減少し2,742ha**（目標値-126ha）、改修済み延長の割合は**1.8ポイント増加し34.4%**（目標値+0.2ポイント）となり**目標を上回り達成**。

これは補正予算等により事業進捗が図られたためと考えられます。

**指標3・指標5** 長寿命化計画は排水機場**4施設**・ダム**7施設**で策定し、計画に基づく延命化を図った河川管理施設数も**6施設**となり、**目標達成**。

**指標4** 4ダムの故障回数は**0回/年**となり、**目標達成**。

欠測は**58回/年**発生しましたが、回数は**大幅に減少**（74%減）しました。

これは、老朽化に伴う欠測は解消したが、落雷等による欠測が発生したためです。

# 群馬県における流域一体となった総合的な浸水対策の推進(防災・安全)

課題と成果

整備の事例

## 整備効果事例

### 事例① 総合流域防災事業 一級河川 粕沢川

#### ■位置図



箇所名：  
高崎市倉賀野町外

#### ■整備効果

##### 整備前



断面狭く、10年に1度程度の大雨で想定される浸水被害面積は14ha。

##### 整備後



川が広がり、浸水被害の軽減を図ることができた。

### 事例② 特定構造物改築事業 一級河川 大川排水機場

#### ■位置図



箇所名：  
伊勢崎市美茂呂町

#### ■整備効果

##### 整備前



ポンプの吐出量低下を引き起こす羽根車の腐食が確認された。

##### 整備後



分解整備にて、塗装を施すことで、腐食の進行を抑制。